

第5次津別町総合計画（案）を町長に答申

津別町総合計画策定審議会（原田英機会長）は、平成22年4月から平成32年3月までの10年間の新しいまちづくりに関する総合計画（案）の審議を終え、12月29日に佐藤町長に答申しました。町では、計画（案）策定のために平成20年の7月に公募委員5名の他に町内の各団体の協力を得、50名体制による策定審議会を設置し、諮問を受けた策定審議会では、昨年12月まで17回にわたる検討作業を行ってきたものです。

計画（案）の「はじめに」では、「町は、この地に暮らす私たち一人ひとりの生活の基盤であり、身近な社会」とし、「それを日々育て、担い、そして活気に満ちたものに仕立て上げていく仕事は、他ならぬ町民の使命なのです」と『町は舞台、町民が主役』の考え方を基本に据えられています。

また、今後のまちづくりのキー・コンセプトを『田園工房のまち・つべつを目指して』とし、中心市街地の活性化・地場産業の活性化・まちづくりセンター構想からなる3つの戦略プロジェクトを設定し、その具体的な展開が記載された内容となっています。

原田会長は、富田会長職務代理とともに町長室を訪れ、「この計画（案）は、我が町に点在する有力な各種資源と潜在力を線で結び、その質を高めて行くために、優先的かつ重点的に取り組むべき内容に絞り込んだものです。実行性を高めるためにも、行政の先導的な役割を大いに発揮されることを期待します。」と答申書を読み上げ、策定審議会でまとめ上げた計画（案）を手渡しました。町長は、1年6ヶ月にわたる策定作業に感謝し「計画（案）の本旨である『町は舞台、町民が主役』のまちづくりに向け全力を上げたい。そして、計画（案）に携わっていただいた皆さんに、引き続きご意見・お力添えをいただき取り組んでいきたい。」と今後の協力を求めました。

町では、答申を受け本町の最上位計画として、3月議会に提案していくこととなります。



12月20日、「ヤーコン3人組」の一人、中山和彦さんがヤーコン10キロの寄贈にケアハウスを訪れました。「ヤーコン3人組」は上里、美都、布川で農業に従事するかたわら、2年前からヤーコンの研究や栽培に取り組んでいる若手農業グループです。

ヤーコンは、繊維質が多くナシに似た触感が特徴。糖度や栄養価も高いので、食べて元気になってもらいたい」と中山さんは話していました。

この日は、福祉寮とグループホームほのぼのにも寄贈を行い、3施設で計22キロを贈りました。



きんぴらや漬け物に！
町内施設にヤーコン寄贈



津別ソフトテニス少年団
全国での活躍に期待！

札幌で開かれた第6回北海道インドアソフトテニス選手権大会のダブルス部門で第3位に入賞し、千葉県で開催される全国大会へ北海道代表として出場することが決まった津別小学校4年生の河野ノアさんが、1月18日に町長室を訪れ道大会の入賞報告と全国大会での活躍を誓いました。昨年9月から美幌ソフトテニス少年団の選手とダブルスを組み、後衛を担当。「全国大会では決勝リーグにあがれるように頑張りたい」と話し、佐藤町長は「体調管理に努め決勝リーグにぜひ進んでほしい」と激励しました。

12月22日、加工馬鈴しょ集出荷貯蔵施設の竣工式が津別町農業協同組合活況事業所施設内で行われました。

同施設は国の平成20年度強い農業づくり事業による補助事業の一環で、昨年8月に起工式が行われました。これまでは、一時的な保管のための施設はあったものの、長期に渡る貯蔵はなく品質低下の問題がありましたが、スケール検査処理室や6室の空調冷蔵施設を備えたこの施設は馬鈴しょの長期貯蔵が可能で、広島県などへ出荷する際の品質保持と出荷量の拡大が可能になりました。

式には津別町農業協同組合、工事関係者ら約70人が出席し玉ぐし奉てんなどの神事を行いました。式典の最後にはテープカットが行われ、新施設の完成を祝いました。



新たな施設の門出を祝うテープカット

年間6千トンの出荷見込み
新加工馬鈴しょ施設が稼働



冬は寄せ鍋が最高
一人暮らしお年寄りの集いが開催

1月13日、津別町中央公民館で、一人暮らしお年寄りの集い（津別町社会福祉協議会主催）が開催され、町内在住の65歳以上のお年寄り87人が交流を深めました。

料理は、寄せ鍋、赤飯、お汁粉などボランティアセンターに所属されている方と津別町赤十字奉仕団の方々20人の協力による豪華なメニューが用意されました。

昼食後は、余興で賞品が当たるビンゴゲームなどがあり、楽しいひとときを過ごしました。

参加者は「冬は、皆で食べる寄せ鍋は美味しく、会話も弾みます」と話してくれました。



「地域住民の安心のよりどころ」
本岐駐在所がリニューアル

12月24日、新しい美幌警察署本岐駐在所の開所式が行われました。本岐駐在所は昭和58年に建てられ築28年が過ぎ、老朽化のため昨年8月から建て替えが進められていました。新しい駐在所は住民の相談に応じるためのコミュニティ施設を完備。

開所式には美幌警察署長や佐藤町長、自治会住民ら約20人が出席。同駐在所には小本一雄警部補が勤務し、「地域住民の安心のよりどころとして犯罪防止に努めていきます」と決意を述べました。

1月14日、津別町教育委員会顕彰の表彰が教育長室で行われ、7人のスポーツ関係者が表彰されました。

今回選ばれたのはテニスの加藤千花さんと佐藤梨緒奈さん、トランプの笹本陸さんと佐々木大樹さんと近藤柊馬さん、相撲の中橋清美さんと白尾聡さんが受賞されました。

選手らを代表して中橋さんが「今までは相撲しかこの賞をいただけてこなかったが、今回はテニスとトランプの選手も選ばれて、同じスポーツをする仲間として嬉しく思います」と述べました。



スポーツの功績を讃える
7人3団体が表彰を受ける